

確かな造型、そこに浮かび上がる詩情 ～ヒラリー・ハーンのブラームスへの期待

今日のヴァイオリン界の第一線で活躍するヒラリー・ハーン。彼女の演奏を聴いていつも感じさせられるのは、厳しいまでの集中力でひたすら作品の本質へ真摯に迫っていく並外れた求心性である。完璧なまでに研ぎ澄まされた技巧の持ち主ながら、技巧的な鮮やかさをこれみよがしに前面に出すようなことはしない。クリスタルともいえる明澄な音と精確な音程、そして感情に流れることのないストイックなまでに伶俐で端正な造型から生み出されるピュアな純音楽的美しさが彼女の身上であり、そこには孤高なまでの高潔な精神性が漂う。そのことはステージ上での彼女の聴衆に媚びることのない凛とした舞台姿と所作にも現れている。多くの点でスター的な素質を持っていながらも、その演奏も活動もおおよそ華やかさとは無縁で、浮ついたところは微塵もなく、ただただ作品に真剣に向き合うことに徹する姿勢を貫いているヴァイオリニストである。



ヒラリー・ハーン
(ヴァイオリン)
Hilary Hahn, Violin

© OJ Slaughter

グラミー賞3度獲得のヴァイオリニスト ヒラリー・ハーンは、表現力のある音楽性と技術的な専門知識を、多様なレパートリーと融合させている。彼女のクラシック音楽に対する姿勢と、自身の経験を世界中の人々と分かち合おうとする覚悟が、ファンを惹きつけている。

これまで多数レコーディングを行っており、特にソリストを務めた22作のレコーディングは、様々な国の新聞雑誌の批評家賞を受賞している。最新の録音である2022年の「エクリプス」は、ドヴォルザーク、ヒナステラ、サラサーテの3曲で彼女の2シーズンぶりの復帰を知らしめるものとなった。2003年のブラームスとストラヴィンスキーの協奏曲、2008年のシェーンベルクとシベリウスの協奏曲、2013年の「27の小品：ヒラリー・ハーン・アンコール」の3作がグラミー賞を受賞している。また、ハーンは数多くの現代作曲家の新曲を演奏している。中でも、マイケル・エイブルズの「アイソレーション・ヴァリエーション」の録音はグラミー賞の最優秀クラシック器楽独奏部門にノミネートされた。

今シーズン、ハーンはブラームス、シベリウス、ドヴォルザーク、チャイコフスキー、プロコフィエフの協奏曲、パブロ・デ・サラサーテの「カルメン幻想曲」、アメリカ初演となるエイノユハニ・ラウタヴァーラの「2つのセレナード」のソリストとして出演する。またソロ・リサイタルも行う。レラ・アウベルバッハとセルゲイ・プロコフィエフの作品集のリサイタルをロンドンとベルリンで演奏するほか、無伴奏リサイタルで彼女を有名にしたバッハのレパートリーをロンドン、ニューヨーク、サンフランシスコ、ロサンゼルス、シカゴで演奏する。

第11回グラスヒュッテ・オリジナル音楽祭賞、2021年ヘルベルト・フォン・カラヤン賞、2023年ミュージカル・アメリカ誌の「アーティスト・オブ・ザ・イヤー」を受賞。現在は、シカゴ交響楽団とロンドンのウィグモア・ホールのアーティスト・イン・レジデンス、ディープミュージックAIの共同創業者兼アーティストックパートナーシップ担当VPである。

その彼女が今回の来日ではブラームスの3曲のヴァイオリン・ソナタを披露する。ロマン派の数あるヴァイオリン・ソナタの中でもブラームスのこれら3曲のソナタは特にしっかりした造型が求められる作品だ。確かな造型があってこそ作品に内在するロマン的情感が滲み出てくるようなソナタだけに、ハーンの持ち味が十二分に発揮されるだろうと思われる。綿密に考えられた造型のもと、感情を表に出すのではなく、曲の内面を掘り下げ、彫琢された表現で自ずと詩情を浮かび上がらせていくような内省的なアプローチで、これらのソナタの美質を聴く者に味わわせてくれるのではないだろうか。

共演は前回と同じくスイスのピアニスト、アンドレアス・ヘフリガー。ハーンとはかなり異なる音楽的資質の持ち主だが、個性の違う者どうしの共演はしばしば思わぬ表現の広がりをもたらすことがある。どのような二重奏になるのか楽しみだ。

音楽評論家 寺西基之



アンドレアス・ヘフリガー
(ピアノ)
Andreas Haefliger, Piano

© Gianmaria Gava

アンドレアス・ヘフリガーは、名テノール歌手エルンスト・ヘフリガーを父にもち、スイス人音楽一家の元に生まれドイツで育った。15歳でニューヨークのジュリアード音楽院へ入学、ほどなくして注目を得ることとなった。アメリカではニューヨーク・フィルを筆頭に、クリエヴァンド管、ロサンゼルス・フィル、ボストン響、ピッツバーグ響、シカゴ響、サンフランシスコ響など主要オーケストラと次々に共演。ヨーロッパでもロイヤル・コンセルトヘボウ管、ロッテルダム・フィル、ミュンヘン・フィル、ブダペスト祝祭オーケストラ、ベルリン・ドイツ響、パリ管、ロンドン響、ウィーン響といった著名オーケストラと共演を重ねている。ロンドンのヴィグモアホールでは、モーツァルトからリグティまでの作品とともにベートーヴェンのピアノ作品を全曲演奏するヘフリガー・シリーズ「パースペクティブ」を定期的開催し、このリサイタル・シリーズは彼の近年のCDとも関連づけられている。また、コペンハーゲン・ルイジアナ美術館に於いて、トップクラスの音楽家を招いてのリハーサルやコンサートを行い、2019年1月にはロッテルダム、シンガポール、マドリッド、香港でツアーを行った。ソニークラシカルよりモーツァルト、シューマンといったソロCDの他、デッカよりタカチ弦楽四重奏団、バリトンのマティアス・ゲルネとのCDをリリース。ゲルネとのシューベルトの録音は、ドイツ・レコード批評家賞を受賞した。2018年春、BISレコードより「パースペクティブ」シリーズの最新盤をリリース。また2020年春には初のコンチェルトアルバムがリリース、バルトークの《ピアノ協奏曲第3番》、ラヴェルの《左手のためのピアノ協奏曲》、ディーター・アマンのピアノ協奏曲を収録している。

2024年 その他の日本公演スケジュール

5/14(火) アクトシティ浜松中ホール
(問)浜松市文化振興財団
053-451-1114

5/15(水) 所沢市民文化センター ミューズ アークホール
(問)ミューズチケットカウンター
04-2998-7777

X(旧Twitter)でフォローする
X@japan_arts

<特別割引チケットのお知らせ>

ジャパン・アーツびあにて受付、川崎公演は神奈川芸術協会でも受付。

- 学生席 (各ランクの半額/席席の指定が可能です)
残席がある場合に限り、4/17(水)10:00より受付を開始いたします。
※社会人学生を除く公演当日25歳までの学生が対象です。当日は学生証をご提示の上、ご入場ください。(学生証がない場合、一般価格との差額を頂戴いたします。)
- シニア・チケット=65歳以上の方は、S席13,000円、A席10,000円(税込)でお求めいただけます。
- 車椅子の方は、本人と付き添いの方1名までが割引になります。
(東京公演はジャパン・アーツびあコールセンターで、川崎公演は神奈川芸術協会でお受け)

<次のことをあらかじめご承知の上、チケットをお求め下さい。>

①やむを得ない事情により、曲目・曲順等が変更になる場合がございます。②公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更等はできません。③いかなる場合もチケットの再発行はできません。紛失等には十分ご注意ください。④演奏中は入場できません。⑤未就学児の同伴はご遠慮ください。また、就学児以上のお子様もご入場には1人1枚チケットが必要です。⑥全席指定です。指定のお席でご鑑賞ください。⑦場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は固くお断りいたします。⑧ネットオークションなどによるチケットの転売は、トラブルの原因となりますのでお断りいたします。⑨他のお客様の迷惑となる場合、主催者の判断でご退場いただく場合がございます。